

二、幼稚園創立の當時

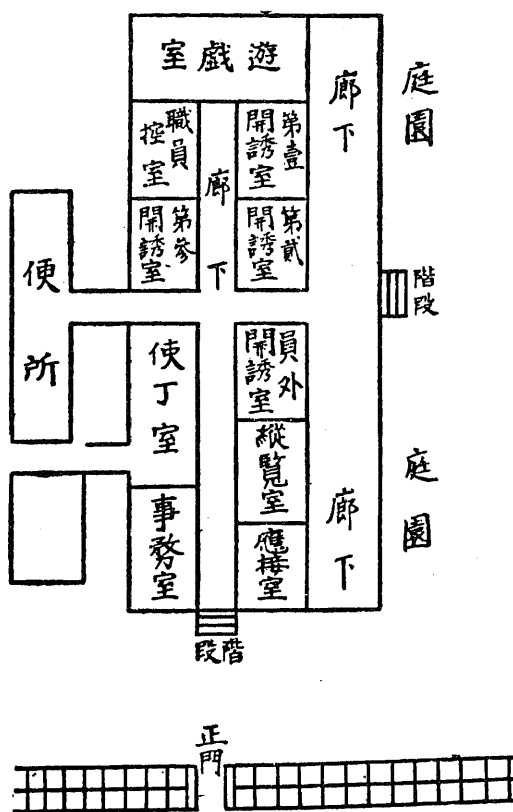
氏 原 鋳 子

今のお茶の水の幼稚園が五十年の昔創立せられた時が、我國に於ける幼稚園教育史の貴い初めのページであることは申すまでもありません。その當時の記憶が如何に重要な資料であるか、また如何に興味深いものであるかも申すまでもありません。たゞ、その貴重な記憶を目のあたり通り得る人は、今日に於て既に多くありません。茲に、氏原鋳子女史に特に懇請して、この御執筆を煩はし得たことは非常なる幸であります。氏原女史は我國幼稚園の昔を語り得る最も古い先輩であるのみならず、我國幼稚園教育の學生のために偉大なる貢獻者として、私共の常に尊敬して居る方であります。大阪市江戸堀幼稚園長として、我國幼稚園功勞者として、諸君御熟知の膳眞規子女史の姉上に當られ、現に氏原醫學博士母堂として、お孫さん方の間に慈み多い、最も幸福なるお祖母様でいらつしやいます。吾々は、氏原女史を思ひ、膳女史を思ふ時、我國幼稚園發達史上、恐らく最も光輝ある記録の一つなるべき、此の「姉妹の功勞者」を、無限の尊敬を以て思はざるを得ないのであります。（編者）

東京女子師範學校附屬幼稚園創立當時の狀況（現東京女子高等師範學校の前身）

明治九年（月日不詳）現今の場所御茶の水に東京女子師範學校附屬幼稚園を創立せらる、當時職

當時園舎の略圖



攝理（校長）中村敬字 幹事 關信三、首席保母、松野クララ（獨乙人）保母豐田英雄、保母近藤濱助
手山田某、助手大塚某（の五名直接保育者）後本田保育傳習濟橫川様子保母となる、事務員二名、使丁
女二人男一人。

園舎、洋館にて北向き、南に伸したる長方形にして、正門北にあり、順天堂醫院と向ひ合ふ。現今は
敷地湯島電車通りに出て角を引き廻はされ居るも創立當時此の一角は町商家ありたり、此の洋館の立派

なるに比し外圍は丸太の柵
なりし、或時幼兒の柵間に
顔を出し往來を見て居りし
に其頭丸太間に挟まり容易
に抜くこと出來す大騒した
ることありし。

園舎の床は高く、地下室に
大暖房を設け之より各室に
鐵管を通し温度を送る裝置
なるも、其構造に不十分な

る點あり其用をなさざりし。

庭は廣く西に延び、池藤棚、築山あり、又三尺四方に劃せる幼兒一人用の畑地あり、之れは幼兒をして種子を蒔き、或は野菜草花を培養し、水を灌ぎ草を取り、自然物發生狀態の趣味を養ひ此の收穫の豆或は野菜等は自家に持ち歸らしめ、又は園内に於て煮て一同に食せしむることあり、之れが作業用として幼兒用小形の鍬及び手桶柄杓を準備す。

當時保育室を開誘室と稱し、此中員外開誘室と云ふは二年八月以上滿三年迄の幼兒を入れ（附添人と共に）保姆保育せず、助手二名之れが保育に當れり、縦覽室は園内の最も美觀を附與する處にて、床上には美しき絨氈を敷き壁間には美麗なる額面を掲げ、衣食住に關する額面は幼兒の趣味深く觀られ又陳列棚あり、之れは幼兒の製品、動植物の標本、諸種の玩具等を陳列し之れが觀玩によりて知識を開くに供し、又此室は來賓室用に使用せり。

此室に掲ぐる衣食住に關する額面は紺地に特に畫家の描きたるものにて、版畫にあらず。此の通りの額面を大阪府より依頼して製作送られたるもの、現在大阪市東區今橋愛珠幼稚園に掲載してあり、下阪の際は御一覽相成りたし。

保育用具ハフレーベル氏製定の恩物を用ひ、樂器は和琴（六絃琴）とピアノ一臺あり、此ピアノは遊戲室に据へ一週二回保姆クラ氏彈じて幼兒一同の唱歌に和す。此當時クラ氏の外にピアノを彈く者な

し他の保母之れを彈くことを知らざりし。

幼兒に唱歌を教ふるに手拍子を取り口移しに教へたり、當時我國に於ては未だピアノオルガンの製造出來ず、皆舶來に仰ぐ時代なりし。

唱歌保育用のもの皆無の時代にて現今の如く唱歌書の出版もなく、又音樂學校もなく、依て保母豊田近藤兩氏作歌して宮内省式部寮雅樂弓員作人に作曲を請ひ、其作人たる芝、林、東儀、奥等の諸氏幼稚園を一週二回教授に來られ、保母一同之れを習ひ後初めて保育用となすもの、斯様にして自ら作らざれば求むるに道なく隨分苦心の時代なりし。

當時唱歌の歌詞は雅言多く其意味は幼兒に解されず、幼兒は唯其旋律の優美なるに快感を有したるものゝ如し、此時代の唱歌中に其意味の稍幼兒に解され、今以て使用せらるゝ風車水車之れなり、今左に難言多き唱歌を示し、其二三を擧ぐ。

花 橘 さつきたつけはひもしるく我宿の花橘はほころびけり庭もかほりて。

春日影 百鳥の立ち歸り來てもろ共におのがさまぐ鳴きかわす聲面白し大空の色もうらゝに曇りなき

日影あまねし波風の治まれる代の光りあまねし。

父 母 1 父母の我行末を朝よひに思ひはかうと嬉しくもさとし玉へるおさなかる我にはあれど。

2 いざさらばま心もちて父のみの父をいやまひ母そはの母をかしこみつかへまつらな。

露霜 つゆしにも梢は色に出でけり衣の袖を吹く風も身にしむ虫の聲すなり驚かれけり年月はなかば

をとしも杉のむら立ち。

此の唱歌の作曲は我國古來旋律法により宮商角徵羽（ウシヨウカクチウ）を基礎とし作製せられ調子の名は一越調（イチコウ）双調（ソウテウ）調平調（テウヘイ）黃調（ワウテウ）涉調（セツテウ）盤涉調（パンセツテウ）にして現今の、と調へ調に調と云ふが如し、之れ古來支那より傳來せるもの、此の樂理を今日使用する西洋樂理に對照するに、其原理歸着する所同一にして、東西樂理の一なる奇と云ふべし。保育上必要な器具恩物の準備に付ては現今の如く幼稚園用の器具恩物の販賣店なく、我國創立の時代なれば一切の見本を獨逸より取り寄せ、本校御用達佐藤と云ふ者に命じ模造せしめたるも、何分初めてのことと思ふ様に出來ず、度々其缺點を改造せしめ又色紙の如きも獨逸のものは洋紙なれば之れを我國の美濃紙又は西の内に染めさせたるに染め上り十分ならず、保姆諸氏の苦心研究指導の結果漸く適當のものを得る様になりたり、實に此時代の苦心思ふも餘りあり。又豆細工は外國のものは竹を用ひず細く削りたる木を以て大豆に接合して作るに其細木の尖端を小刀にて削り細く尖らして作らざれば出來ざる極不便のものなりしが、近藤保姆の考案により細く削りたる竹に豌豆を以て接合し容易と作り得らるゝ様なりたること近藤保姆に感謝する次第なり。（大豆の扁平なるに代ふるに圓き豌豆を用ひ削り箸に代ふるに細き竹を用ひたることを）

明治十一年二月始めて保育傳習生を置く、大阪府より森末、氏原銀、國直接の給費生横川煤の三名（其後

續て傳習生數名を出だせり)

明治九年より十一年の間に於て 英照皇太后陛下 昭憲皇后陛下 本校の行啓の時幼稚園へ行啓遊ばされた、此時幼稚園にては風車の遊戲を御覽に入れた、保姆一同淺黄無地甲斐絹一反を下賜せらる、後の行啓の時保姆は先きに拜受の甲斐絹を衣服に仕立着用せり。

昭憲皇后陛下 は本校へ左の御製を下賜せられる。(行啓の時)

磨かすば玉も鏡も何かせん學びの道もかくこそ有りけれ

右の御製に符を付け本校幼稚園共に謹唱せり。(後に於て)

當時の保姆は日本髪を結び袴を着用す。(稿地)

參觀人の中外國公使も有りたるが、此中に付き一番鄭重な待遇せしは支那公使にて(名は忘却)從者數名を連れ、(一行十餘名)參觀後縦覽室に於て西洋料理(最上等)饗應をなし、其室内の裝飾も立派に小鳥の籠などを提げたり、此來賓の歸りし後其料理の殘品を職員一同に與へられたるに中々殘品とは思はれぬ程の御馳走なりし。

明治十一年新緑の候、幼兒職員一同飛鳥山に遠足を催し、馬車にて行く、此時幼兒は家庭より各附添人ありたるを以て保姆は責任輕かりし。
以上は記憶思ひ出を記したるも粗漏を免れず、何分明治十二年頃の狀況に付之れより以後の事情は他に就て御取調相成度候。